

令和6年11月6日(水)第5限

場 所：音楽鑑賞室

対 象：2年9組音楽科38名

授業者：鷲尾 ひとみ

1 題材名「サウンドロゴについて理解を深め、社会における音楽の力を考えよう」

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は音楽科に在籍しており、週に3コマの個人レッスンをはじめ、音楽理論や音楽史、ソルフェージュなどの専門的な学習をしている。音楽が大好きな生徒が多く、授業に対しては熱心に取り組み、個人差はあるものの、専門的な音楽の資質・能力は確実に上がっている。しかし、入学時には音楽が楽しく、得意だと思い入学をしてきているが、周囲と自分を比較することが増え、音楽に対して壁を感じる生徒が増えている実態がある。難易度が高い問題の満点を目指すことだけが授業の目的とならないようにすることが必要であると考え。日々の授業では、基本的に一人ひとりの学習一斉授業となっているが、今回は個人の活動をつなぎ合わせてサウンドロゴを形づくる音楽の要素を分析していくため、協働してコミュニケーションを取りながら、より深い学びになると考える。

(2) 題材について

本題材では普段取り組ませている楽典、和声等の域を超え、生徒にとって馴染み深いCMのサウンドロゴにおける音楽の力を理解した上で記譜をさせる。サウンドロゴは、一見短い音楽であるが企業名や商品の宣伝効果を高める要となる音楽である。旋律の他、下に流れるハーモニーや音素材などの構成が聴き手に与える印象を大きく左右する。企業ブランドの認知度や想起率を上げたり企業のイメージを伝えたりすることができることは、サウンドロゴを形づくっている音楽の要素が鍵となっている。日頃より学んでいる、音楽がもつ力を理解し、可能性を創造させることで、各々が音楽と今後どのようにかわり、社会に貢献したいかを考えるきっかけになるよう授業の展開をしたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、下記の学習指導要領に基づいて指導するものとする。

音楽理論 1 目標

- (1) 音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。

3 題材の目標

- (1) サウンドロゴを形づくっている音や音素材を理解し、楽譜に表すことができる。〈知識及び技能〉
- (2) サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を知覚し、それらの働きや効果について思いや意図をもつことができる。〈思考力、表現力、判断力等〉
- (3) サウンドロゴや生活の中の音楽に関心をもち、音楽の力を考え表現に生かそうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

各ブランドのサウンドロゴ

- ① 食品
- ② コンビニエンスストア
- ③ 家電&ガソリンスタンド

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	音楽理論 (1) 楽典, 楽曲の形式など (2) 和声法 (3) 対位法
〔共通事項〕ア	音色・旋律・構成
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・サウンドロゴについて理解する。 ・サウンドロゴを楽譜に表す。 ・サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を分析する。 ・サウンドロゴを形づくっている音楽の要素の効果を考える。 ・表現したいイメージを膨らませ、音楽の要素や働きを踏まえてサウンドロゴを創作し楽譜に表す。

6 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	知1 サウンドロゴを形づくっている音や音素材を理解し楽譜に表すことができる。	思1 サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を知覚し、それらの働きや効果について思いや意図をもつことができる。 思2 自分の表現したいイメージをもち、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の要素を選択し、思いや意図をもって表現を創意工夫している。	態 サウンドロゴや生活の中の音楽に関心をもち、音楽の力を考え表現に生かそうとしている。
1時	○	○	
2時		○	○

7 指導と評価の計画

時	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○サウンドロゴについて理解する。 ・身の回りにあるサウンドロゴを思い出す。 ・ワークシートの記入をする。 ○サウンドロゴを楽譜に表す。 ・単旋律を楽譜に表す。 ○サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を分析する。 ・サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を聴取し、多声部あることを理解する。 ・グループで多声部の楽譜を完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○サウンドロゴを形づくっている音楽の要素の効果を考える。 ・自分の思いを figjam に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が初めから音を提示するのではなく、生徒に歌わせたり、弾かせたりする。 ○ワークシートの記入に時間がかからないようにする。 ○わかりやすいようにピアノの音で聴音させる。 (タブレットで個別最適な学び) ☆細 (ワークシート) サウンドロゴを形づくっている音や音素材を理解し楽譜に表すことができる。 ○旋律以外の音楽の要素に意識を向けさせる。 ○ソルフェージュが苦手な生徒へキーボードの使用や班の役割分担を工夫させる声掛けを行う。 ○完成した楽譜の写真を撮り、共有できるようにする。 ☆思1 サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を知覚し、それらの働きや効果について思いや意図をもっている。(ワークシート・付箋)
2時	<ul style="list-style-type: none"> ○表現したいイメージを膨らませ、音楽の要素や働きを踏まえてサウンドロゴを創作し楽譜に表す。 ・音楽の要素の働きを確認する。 ・自分が聴き手に与える印象を整理する。 ・楽譜に表す。 ・互いに共有し、与えたい印象と与えた印象を踏まえてサウンドロゴにおける音楽の価値をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回、全員で共有した楽譜に付箋を貼ったものを活用して、イメージを膨らませる手助けをする。 ☆思2 自分の表現したいイメージをもち、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の要素を選択し、思いや意図をもって表現を創意工夫している。

8 本時の学習 (1 / 2)

(1) 本時の目標

- ・サウンドロゴを形づくっている音や音素材を理解し、楽譜に表すことができる。 <知識及び技能>
- ・サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を知覚し、それらの働きや効果について思いや意図をもつことができる。 <思考力, 表現力, 判断力等>

(2) 展開

	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○社会に音楽が溢れていることを理解する。 ・身の回りにあるサウンドロゴを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に入力しているシートを全体で共有する。 ○初めから音を提示するのではなく、生徒に歌わせたり、弾かせたりする。

<p>展開 40 分</p>	<p>○サウンドロゴについて理解を深める。 ・サウンドロゴについて音やイメージを膨らませる。 ・ワークシートの記入をする。</p> <p>○サウンドロゴのうち、旋律を楽譜に表す。 ・単旋律を楽譜に表す。 ① コアラのマーチ（全員で一斉に） ② クラスルーム等で与えた課題を各自でできるところまで進める。</p> <p>○サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を分析する。 ・コアラのマーチのCMを見る。 ・コアラのマーチのサウンドロゴを音楽の要素で捉え、その効果を考える。 ・サウンドロゴを形づくっている音楽の要素が複数あることを理解する。 ・自分が楽譜に表す担当の声部を決める。 ・グループで多声部の楽譜を完成させる活動に取り組む。</p> <p>○サウンドロゴを形づくっている音楽の要素の効果を考える。 ・完成した楽譜から、音楽の要素を3つの視点（旋律、音色、構成）でそれぞれの効果を考え各自付箋を貼る。</p> <p>・各班内で意見交換をする。</p> <p>・各班の付箋が貼られたボードを全体で共有する。</p> <p>・サウンドロゴを分析してみて気づいたことや、共有してさらに発見したことを踏まえて音楽の要素の働きや効果をまとめる ・音楽の要素の働きに関する自分の思いをワークシートに記入する。</p>	<p>○想像以上に多くの音楽が社会に溢れていることを改めて実感させる。 ○ワークシートの記入に時間がかからないようにする。 ○聴音が苦手な生徒にはキーボードを使用させる。</p> <p>○わかりやすいようにピアノの音で聴音させる。（タブレットで個別最適な学び） ○すぐに記譜ができる生徒はメロディーの裏に流れる和音や効果音などを思い出すように促す。</p> <p>○旋律以外の音楽の要素に意識を向けさせる。 ○様々な音楽の要素が絡んでサウンドロゴを形づくっていることを意識させるために、それぞれの要素を変えた例を提示する。</p> <p>○ソルフェージュが苦手な生徒へキーボードの使用や班の役割分担を工夫させる声掛けを行う。</p> <p>○完成した楽譜の写真を取り、共有できるようにする。 ☆図 サウンドロゴを形づくっている音や音素材を理解し楽譜に表すことができる。（ワークシート） ○付箋の色を指定する。 赤：旋律 緑：音色 青：構成 ○付箋が貼れない生徒（C評価）への手立てとして、もしもその要素がなかったらどうなるか声掛けしたり共有している他者の意見を参考にさせたりする。 ☆思 サウンドロゴを形づくっている音楽の要素を知覚し、それらの働きや効果について思いや意図をもっている。（ワークシート・付箋） ○他者の意見は見ても良いことにする。</p>
<p>まとめ 5 分</p>	<p>○本時のまとめと創作に向けて思いやイメージを膨らませる。 ・ワークシートの記入をする。</p>	<p>○次週に向けてワークシートに創作したい音楽のイメージを記入させる。 ○イメージが膨らみやすいよう、例をパワーポイントで掲示する。</p>

備考 評価の規準（C評価はB評価に満たない場合の支援）

- 図** A評価：Bに+して、他者の声部も楽譜に表すことができている。
B評価：自分の担当している声部の音楽の要素を理解して楽譜に表すことができている。
「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけ（手立て）
キーボードの使用、速度を落として聴取させるなど少しでも多くの音符が書けるよう声をかけ、支援する。
- 思** A評価：Bに+して、別グループの楽譜に思いや意図をもって付箋を貼ることができている。
B評価：サウンドロゴを音楽の要素ごとに理解し、自分のグループの楽譜に付箋を貼ることができている。
「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけ（手立て）
音楽の要素が変化した例や要素が欠けるとどうなるか想像させられるように声をかけ支援する

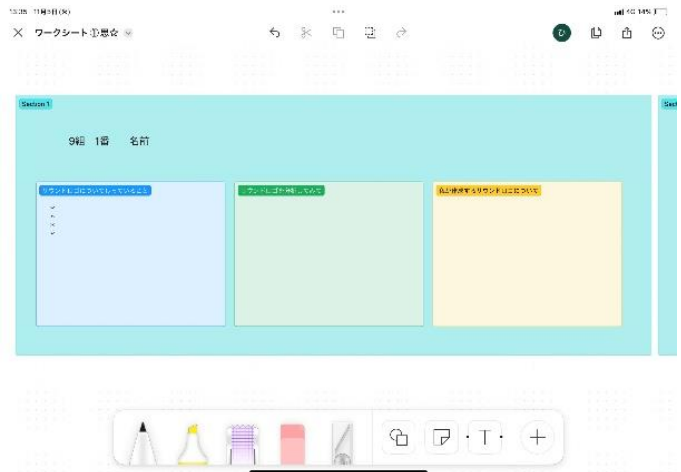
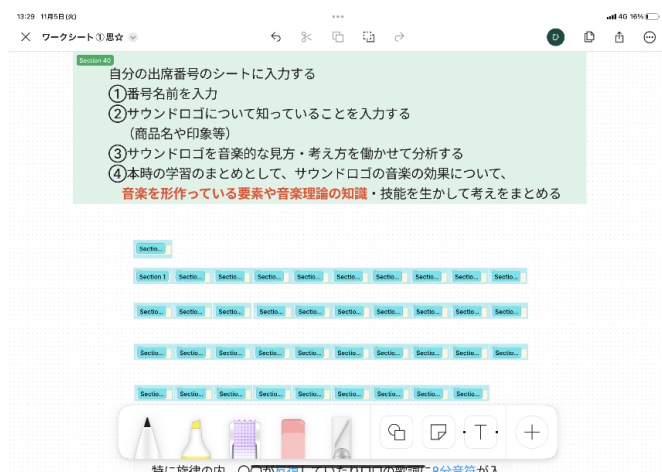
ICT 活用

ワークシートは楽譜のみにし、その他の記入は figma を使用する。

生徒が学びの途中で互いの意見をすぐに見ることができることは、コミュニケーションが深まるきっかけとなり、自分の考えと比較することにつながり、より深い学びになると考える。また、すぐに動画で音を何度も聞き直せる環境が整うことで自らの学びを振り返り、今後に生かすことができると思う。

留意事項

- *st アカウントで事前にアカウント登録が必要であること
- *スマートフォンでは入力できないこと
- *サーバー次第で動画が固まってしまう恐れがある
- *その他、聴音後に別紙の楽譜を配布する。

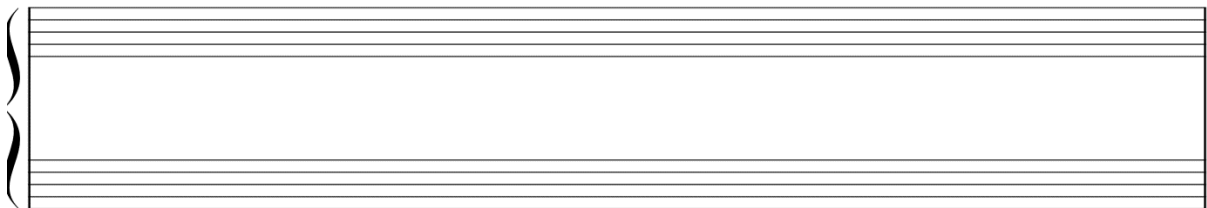
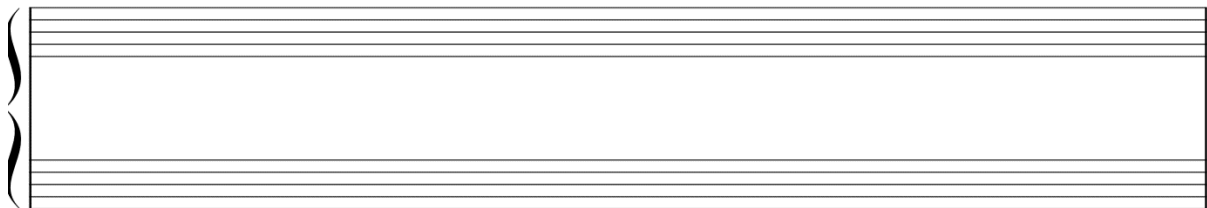
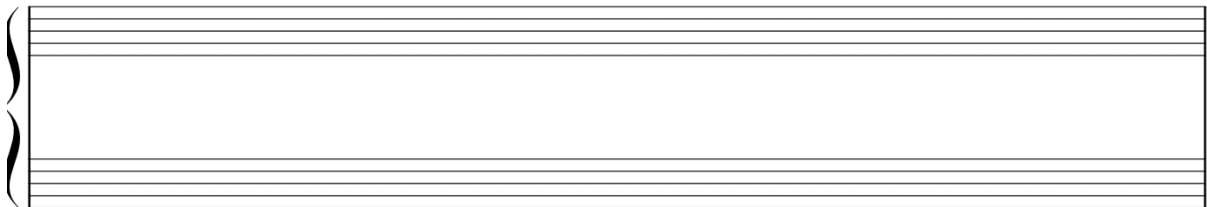
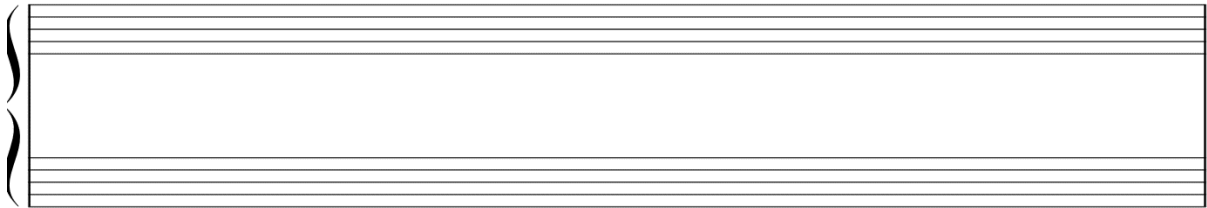


楽譜ワークシート

商品・企業名 ()

自分が主に聴取する音楽の要素 (旋律 ・ 音色 ・ 構成) の内、

写真を撮って共有するから見やすく書こう♪



MEMO ※この商品のイメージは？ そのイメージをもたらす音楽の要素はどれ？
気づいたことをメモしておこう。このシートを参考に Figma に書き込もう！